市政に関する一般質問
9月会議は20名の議員が質問

放課後児童クラブの保育環境改善について
佐藤　剛　議員

問　クラブの規模を小さくして、保育の質を高めることへの見解を伺います。

答　新たな空き教室や専用施設の整備エリアの確保を要するため難しい状況にありますが、出席者数に応じて支援員を増員したり、小学校と連携し、放課後に使用しない部屋を一時的に借りるなど、安全で安心なクラブの運営を継続します。

問　夏休みなどの長期休暇中のクラブにおける昼食の提供についての見解を伺います。

答　一部のクラブでは、保護者会が児童クラブの運営委託事業所と連携し、外部の専門業者に弁当の発注をする一方その他のクラブでは、保護者会が設置されていないことや保護者会からの要望がないことから、各家庭で児童に昼食を持たせるなど対応が異なっています。

令和6年度予算編成方針について
小易和彦　議員

問　予算編成に向けた市長の決意を伺います。

答　本市を取り巻く状況に大きな転換期が訪れていると思います。それは、北千葉道路の整備事業から鎌ケ谷市をさらなる発展につなげる高いポテンシャルを感じることや北海道日本ハムファイターズの球団や新たな本拠地である北広島市を訪問し、それぞれ今後の連携について意見交換を行ってきたためです。

こうした状況から、子育て支援や安全安心の取組などの市民サービスの向上に努めるとともに、市のさらなる魅力アップや地域活性化の取組に重点化を図りつつ、少子高齢化による扶助費の増や物価のさらなる高騰などが見込まれるため、引き続き行財政改革に取り組み、健全な財政運営を担保しながら、令和6年度の予算編成を行います。

北海道日本ハムファイターズ及び関係自治体との連携強化について
勝又勝　議員

問　ファイターズ鎌ケ谷スタジアムと市の連携事業の状況について伺います。

答　野球教室のほか、小中学校におけるキャリア教育、新鎌ケ谷駅自由通路のデジタルサイネージを使ったファイターズの情報発信などを実施しています。

問　同スタジアムを商工観光の視点として捉えることについての見解を伺います。

答　観光施策の推進や商工業などの視点から、観光を含め地域経済の活性化のため地域資源であるファイターズ鎌ケ谷スタジアムを活用していくことが重要であります。

問　北広島市との連携を強化するため、エスコンフィールドでの鎌ケ谷デーの計画について伺います。

答　プロスポーツを活用したまちづくり検討会の中で、同計画についても検討課題となっています。

給食残滓について
針貝和幸　議員

問　給食残滓の現状を伺います。

答　令和4年度は、率で17.1%、量で113tでした。

問　近年は処分費用やCO2削減のため、生ごみを水に変えるバクテリア方式という装置が開発され、学校やホテル、スーパーなどで採用されていますが、本市の給食残滓の処理にも同装置が採用できないのか伺います。

答　近年、CO2削減などを目的に生ごみを水に変える装置を導入している地方公共団体もあるため、その有効性などを調査研究します。

保育現場の安全対策について
伊福幸一　議員

問　令和3年7月に福岡県、令和4年9月に静岡県で、送迎バスに置き去りの園児が、熱中症で亡くなられた大変痛ましい事案を受けて、送迎用バスの置き去り防止安全装置の設置が義務化されましたがその進捗状況を伺います。

答　市内において送迎バスを運行している保育施設などは民間保育所が1園、認定こども園が1園、私立幼稚園が8園、公立の子ども発達センターが1園の計11施設であり、その内、私立幼稚園1園を除いた10施設で、既に安全装置の設置が完了しています。なお、未設置の私立幼稚園は、今年度中に設置を完了する予定と伺っています。

送迎バスの安全装置

子ども達に影響する「教員不足」の現状と「教員の働き方改革」について問う
津久井清氏　議員

問　昨年度、病休等により年度当初に配置できなかった市内小中学校の教員の人数は何人ですか。

答　令和4年度当初は休職により1名が未配置でしたが年度途中に代替教員を配置しました。また、年度途中に発生した欠員のうち、産前産後休暇で2名、長期療養休暇で1名、休職で1名の計4名は、年度途中で代替教員を配置できませんでした。

問　教員不足による子どもへの影響について伺います。

答　子どもには年度途中から担任が替わることや授業の進め方等によっては精神的な負担をかけてしまうと認識しています。

問　文部科学省の発表では、令和3年度、1カ月以上の病休を取った教員は全国で1万人を初めて超えたとありましたが、教員の業務削減にどう取り組んでいますか。

答　学校徴収金の公会計化や校内行事の見直し等で教員の業務削減を図っています。

北千葉道路地下化について
伊藤仁　議員

問　北千葉道路を地下化するとコストが高架式の2倍から3倍になると確認できたとの答弁が6月会議でありましたが、その根拠を伺います。

答　首都高速道路中央環状線や東京外かく環状道路のトンネル区間と高架区間の建設費を比べたものです。

問　そのトンネル区間は40m以上の深地下で、私の言う北千葉道路の地下化は上から掘り割りを作り、その上に蓋をかける方式なので、コストは全く違います。そのうえ、比較している2つの区間は作られた年代が違うため、コストの比較にはならないと考えるが、それについてどのような考えですか。

答　一般的に高架構造に比べて地下構造は建設費が高い傾向にあります。

バリアフリー法（注1）について
森谷宏　議員

問　令和2年度の法改正に伴い、重点整備地区の考え方の改正は行われたのか伺います。

答　法改正に伴い、国の移動等円滑化の促進に関する基本方針の改正が行われ、重点整備地区の要件が緩和され、地域の実情に合わせて選定することが可能となりました。

問　身体障がい者の方にとってどのようなバリアフリーの対策が必要か市の見解を伺います。

答　具体的な対策としては、下肢の障がいの方には段差の解消や手すりなどの設置、車椅子をご利用の方には出入口及び通路の幅の確保、また、視覚障がいの方には点字ブロックや音声による誘導装置などの対策が必要と考えています。

大規模災害時の対応について
泉川洋二　議員

問　感染症対策を考慮して体育館以外にも校舎を避難所として受け入れる考えが国から示されていますが、どのように考えていますか。

答　校舎の避難所への活用は施設管理者との調整や避難所運営組織等と協議を行い、他市の状況等を参考にしながら検討していきます。

問　飲料水確保における今後の取組について伺います。

答　避難所となる各小中学校をはじめ公共施設の受水槽への給水栓設置など、早期に実施できるものから着手していき、井戸付耐震性貯水槽については、老朽化したものへの対応を含めて、専門業者の意見を聞き検討していきます。また、ペットボトルの飲料水の備蓄、飲料水袋の更新などの検討その他、県企業局との連携や家庭における備蓄の取組を強化していきます。

重症心身障害児（者）の支援について
矢崎悟　議員

問　人工呼吸器等の使用者にとって、長期停電時に発電機や蓄電池は、命をつなぐ重要な設備です。他市では、非常用発電機等を日常生活用具の対象品目とするほか、購入費用の助成を行っていますが、市の取組に関する見解を伺います。

答　自宅で人工呼吸器等の医療機器を使用する人にとって停電は命の危機に直結します。災害時などの停電時においても支障なく機器が使用できるよう助成も含めて検討します。

問　介護を担う家族の高齢化等から、医療的ケアに対応できるグループホームの整備が必要と考えますが、市の見解を伺います。

答　重度障がい者に対応したグループホームは不足している状況のため、看護師等の医療従事者の確保などの課題もありますが、整備を促進する必要があると考えています。

（注1）バリアフリー法：高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律